

## “とくしま海と船の魅力発信フェスタ”を開催しました！

環境増養殖担当 中西 達也

Key word ; 一般公開, イベント, 海, 漁業実習船「阿州丸」, 漁業調査船「とくしま」, 船, 魅力発信

11月6日(土), 徳島市の沖洲マリンターミナル埠頭岸壁において, “とくしま海と船の魅力発信フェスタ” ~漁業調査船「とくしま」, 漁業実習船「阿州丸」一般公開~ を開催しました。

このイベントの目的は, 県民, とりわけ次世代を担う子どもや若者に海, 船, 漁業, 魚介類に興味・関心を持つ機会を提供し, 水産業への理解をより深めていただくことです。このことから, 徳島の海や漁業の研究を担う当水産研究所と, 教育研修を担う徳島科学技術高校が協力して開催しました。

当日には, 漁業調査船「とくしま」(全長 32.71m, 総トン数 80 トン)と漁業実習船「阿州丸」(全長 18.73m, 総トン数 19 トン)の 2 隻の船が接岸し, それぞれの船内を回っていただき, ふだんの研究活動や成果, 教育や実習の内容について分かりやすく紹介しました。

イベントの目玉である, 漁業調査船「とくしま」は, 徳島県沿岸の漁場環境を守り, 漁業者の効率的な操業を支援するために国際基準の最新鋭の観測機器を搭載し, 水温, 塩分, プランクトン量および卵稚仔量などを 40 年以上継続して調べています。

「とくしま」のブリッジや機関室では最先端の航海機器や装備について, また, 調査室や後部甲板上では海洋観測の内容やそれに必要な機器について, クルーや研究員から説明しました。



写真 1. 漁業調査船「とくしま」見学の様子。(上段左)岸壁に接岸中の漁業調査船「とくしま」。ブリッジから見学していただきました。(上段右)ブリッジでは操舵を体験していただきました。(下段左)「とくしま」船内の調査室。海洋観測のデータがどのように収集されるかを説明しました。(下段右)「とくしま」の後部甲板では海洋観測機器(CTD)の実物を展示しました。

見学を終えられた方から「徳島県にもこんな船があるとは知らなかった。」というお声をたくさんいただきました。

イベントプログラムとしては、このほかにも、普段触れることができない魚介類に触れることができる「タッチングプール」、チリメンジャコに混ざった魚介類、甲殻類の稚魚・幼生(チリメンモンスター)を探し出す「チリメンモンスターを探そう!」、「ロープワーク教室」などのコーナーが設けられ、小さなお子様にも楽しんでいただきました。最終的に、子ども連れの家族を中心に約 350 名の方にご来場いただきました。

最後になりましたが、ともに企画、運営に携わった徳島科学技術高校の先生、生徒の皆さん、お手伝いをいただいた徳島大学「はまの研」の皆さん、後援をいただいた徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、徳島県漁業協同組合連合会にお礼申し上げます。



写真 2. 船舶の公開以外のイベントプログラムの様子。(上段左)チリメンモンスター探しに取り組む子ども。(上段右)徳島科学技術高校によるロープワーク教室。(下段左)タッチングプールのいろいろな魚をのぞき込む子どもたち。(下段右)漁業調査船「とくしま」の紹介および水産研究所の成果に関するパネル展示をおこないました。